

新商工業活性化ビジョン2019～2028

ビジョン作成の基本的な考え方

1.ビジョンの位置づけ

「商工業活性化ビジョン2019～2028」は、大府市における中小企業の活力強化と地域経済の活性化に関する取り組みを、総合的かつ計画的に推進するための基本とする。

ビジョンに基づく取り組みは、会員企業はもとより、行政、関係経済団体、金融機関、市民団体等と連携・協力して推進することとする。

2.ビジョンの期間

2019年度から2028年度までの10年間

3.ビジョンの推進

毎年の予算・事業計画に基づく、会議所の取組を検証するとともに、目標として掲げた項目については、その達成状況を把握する。そして、これらを踏まえて取組を改善するなどして、大府市の中小企業・小規模事業者の活力強化と地域経済の活性化に努める。

社会情勢の変化と大府の課題

1.社会情勢の変化

- 1 人口減少と高齢化
- 2 ICT・IoT・AIの急速な進展
- 3 リニア中央新幹線の先行開業
- 4 インバウンド4000万人時代
- 5 SDGs(持続可能な開発目標)の採択

2-1.大府の特徴

- 1 名古屋市に隣接する住宅都市の側面と、工業(ものづくり)都市としての側面を持つ。
- 2 JRで名古屋まで10数分と極めて交通至便だけでなく、自然環境にも恵まれた豊かな地域。
- 3 「健康都市」を都市目標に掲げて、あいち健康の森及びその周辺には、健康・医療・福祉・介護の施設が集積しており、健康長寿の拠点形成を目指す「ウエルネスバレー構想」を推進。

2-2.大府の課題

平成21年3月に作成した「商工業活性化ビジョン2009～2018」と3次にわたる「短期行動計画」に基づき実施してきた取組について、「ひとづくり」「ものづくり」「まちづくり」の三本柱の視点で課題を整理。

(1)ひとづくりの視点

【IT人材の育成】、【人材確保と働き方改革の推進】、【技術技能の伝承】、【事業承継と起業・創業の推進】

(2)ものづくりの視点

【生産性の向上】、【販路開拓】、【新分野・新産業進出】、【資金調達の円滑化】、【リスクマネジメントの推進】

(3)まちづくりの視点

【基盤整備の推進】、【中心市街地活性化】、【観光・誘客意識の醸成】、【大府らしさの創出】

ビジョンの基本理念

地域経済の持続的発展

～会員企業・事業者の繁栄が市民・地域の繁栄に～

活動方針

1. 会員企業・事業者のニーズを踏まえた経営改善支援

「地域経済の持続的発展」を促していくためには、企業・事業者の競争力を確保し、地域の雇用を創出していく必要。

経営改善支援は、商工会議所の最も基本的かつ重要な役割であり、「会員企業・事業者の競争力強化」に直結する業務。

時代の変化を読み、地域のニーズや特性を踏まえながら、人、モノ、情報、金などの限られた経営資源をフルに活用して、会員企業・事業者の持続的繁栄を支援。

2. 地域の賑わい創出・ブランド化への貢献

「企業・事業者の繁栄」が「地域の賑わい」につながり、それがまた「企業・事業者の繁栄」につながる上昇型のスパイラルな関係を構築。

地域の担い手である行政、農業者、教育・研究機関、市民団体、住民などとの連携の下、地域資源の更なる発掘と活用に努力。

3. 経済界や地域の声を的確に反映した行政への提言・要請

「地域経済の持続的発展」には民間活力を引き出す成長戦略や優秀な人材を呼び込み定住させる優れた住環境など、ハード・ソフトにわたる質の高いインフラ整備が不可欠で、行政の役割が極めて大。

地域のオピニオンリーダーとして、企業・事業者の経営課題や地域課題の解決に向けて、積極的な政策提言や要請活動を実施。

4. 親しまれる大府商工会議所の実現

会員ファースト・会員目線で時代や環境の変化に即応した事業・サービスを展開。

会議所の信頼を高めることにより、会議所の組織率や財政力を向上させ、会議所においても持続的な発展を目指す。

事業展開

1. 「持続可能なものづくり集積地」の形成

【目標】

大府の強みである「ものづくり」の集積を高め繁栄させることにより、地域経済の持続的発展を実現するとともに、地域の社会課題の解決にも貢献する。

【背景】

1 ものづくりの環境変化

グローバル化により、各国間、地域間競争が激化。

2 競争の激化

個別企業の情報の深掘りと企業ニーズの把握により異業種とのビジネスマッチング、産産連携、産学官金連携を通じて新分野、新産業進出の支援を行う。

3 経済成長と社会課題の解決

国際社会の抱える社会課題の解決と経済成長の両立が迫られている。

2. 「健康で働きやすい持続可能な経営」の実現

【目標】

重要な経営資源である人材を確保し続けることができる労働環境・職場づくり等を通じて、収益性が高く健全で持続可能な企業を育成する。

【背景】

1 労働環境の変化

少子高齢化による労働人口の減少が、深刻な人材不足を招来。

2 社会保障制度改革

急速な少子高齢化が、年金・医療・介護等の社会保障制度の持続可能性に大きく影響し、社会課題を惹起。

3 健康都市大府のブランド

大府には医療、福祉、介護などの施設が集積しており、健康都市ブランドが定着。

3. 「持続可能なまちづくり」の推進

【目標】

生産性を向上させると共に、優秀な人材を呼び込み、定住させることのできる質の高いインフラ整備により、持続可能な経済成長と健康、衛生、防災・減災、環境などの社会課題の解決に努める。

【背景】

1 整備基盤の遅れ

道路や中心市街地の基盤整備の遅れ。

2 インフラ施設の機能維持。

人口減少を前提にしたインフラ整備やメンテナンスが必要。

3 観光・誘客意識の醸成

観光、誘客の取り組みが遅れている。

4 スマートシティへの対応

IoTを活用して人の生活を便利で豊かにするスマートシティの実現が期待。

持続可能な開発目標SDGs (Sustainable Development Goals)



新商工業活性化ビジョンの取組の基本姿勢と事業展開

「持続可能なものづくり集積地」の形成

【取組の基本姿勢】

- 1 小規模・零細事業者への配慮
- 2 多角的できめ細かな支援
- 3 プライドある支援

【事業展開】

1 攻めのIT活用

競争力強化に向けて、業態 やニーズの段階に応じたIT活用を支援。

2 攻めの新分野・新産業進出

個別企業の情報の深掘りと企業ニーズの把握により異業種とのビジネスマッチング、産産連携、産学官金連携を通じて新分野、新産業進出の支援を行う。

3 攻めの販路拡大

グローバル市場に向けて、外部機関と連携して支援。

4 資金調達支援

各種融資制度、税制優遇制度を「つなぐ」支援及び経営計画策定、データ分析による資金調達手法の指導。

5 リスクマネジメント支援

経済の多様な活動のリスクに対し、行政や専門機関と連携して対応。

「健康で働きやすい持続可能な経営」の実現

【取組の基本姿勢】

- 1 大府の特長と中小企業の強みを生かす
- 2 経営トップへの積極的な働きかけ
- 3 ワークライフ・バランスの推進

【事業展開】

1 従業員の心と体の健康を推進

従業員がいきいきと働き続けられる職場に。

2 職場環境の健康を推進

働き方改革に繋がる設備の充実やワークライフバランスの推進、イクボスの育成支援。

3 企業経営の健康

企業業績の向上、財務体質の強化、人材の確保・育成、事業承継など持続可能な経営を支援。

「持続可能なまちづくり」の推進

【取組の基本姿勢】

- 1 行政始め関係者との連携
- 2 「ぶどう」型コンパクトシティの検討
- 3 地域資源の磨き上げ
- 4 地域の絆の維持

【事業展開】

1 「ぶどう型コンパクトシティの検討」

市民、行政、経済界などに共通する都市ビジョンを具体化。

2 地域資源の磨き上げ

健康、スポーツ、農産物など地域資源の活用や誰もが住みやすく働きやすく、企業活動や生業を営みやすいまちづくりを推進。

3 地域の絆の維持

商業・サービス業などの個店を元気にして、商店街を活性化するなどして、街の賑わいを創出。

商工会議所基盤の強化

【事業展開】

- 1 事業・サービスの満足度向上: 会員のニーズを的確に捉えるとともに、会員メリットや支援成果を明確化。
- 2 商工会議所の生産性向上と活動の見える化: 事業の集中と選択、定型業務の統合・簡素化、合理化を促進して、働き方改革を推進。
- 3 組織・財政基盤の強化: 会員ファースト、会員目線の事業展開による会員満足度と組織率の向上。